

富岡美子作 「一年の計は…」

効果音 (電話のベル)

河野優子 はい、河野です。

永井裕二 (フィルター音)あ、優子？ 明けましておめでとう。

優子 なーんだ、裕二君か。おめでとう。

裕二 (フィルター音)「なーんだ」はないだろう。

優子 あ、ごめんごめん。ところで、新年早々、なんの用事？

裕二 (フィルター音)別に用事なんてないけどさ。退屈しのぎに祐子とでも話をしようかと思って電話したんだ。どうせ優子も暇なんだろう？ だったら、映画でも見に行かないか？

優子 失礼しちゃうわね。暇、暇って、あたしにだってスケジュールっていうものがあるのよ。

裕二 (フィルター音)分かったよ。でも映画見る暇ぐらいあるだろ？ 正月ぐらい、のんびりと過ごせよ。

優子 そうね。たまには裕二君と付き合うのも悪くないわね。

裕二 (フィルター音)そうだぜ。それじゃ決まり！ 駅に1時。待ってるよ。

効果音 (電話を切る音)

ナレーション 永井裕二と河野優子とは幼友達の高校2年生。二人は会えば何かとロゲンカをしていましたが、“ケンカするほど仲が良い”と言われてるように、二人もまさにそうでした。映画を見ての帰り道――。

裕二 やあ、よかったなあ。おれ、感動しちゃったよ。

優子 あたしは全然感動なんかしなかったわ。もっとロマンティックな映画見たかった。

裕二 それはこの次。でもおれたち、3年になったら映画見るゆとりなんかないな。こうしてのんびりしてられるのも。

優子 そうね。ところで裕二君、今年の目標は？

裕二 そうだな…。今年の目標と言うより、来年3月までの目標と言ったほうがいいな。とりあえず、今の目標は青春大学に入ることだな。

優子 え、裕二君も？ あたしも青春大学に入ることが目標なの。

裕二 優子もか。それで優子は、青春大学入る自信あるのか？

優子 自信？ あまりないわ。だから昨日、綿密な計画を立てたの。ほら、“一年の計は元旦にあり”って言うじゃない。裕二君は計画立てた？

裕二 計画？ そんなもん、おれが立てるわけないだろ。

優子 それじゃ裕二君はあの大学入る自信あるの？

裕二 ないよ。

優子 だったら立てなさいよ。

裕二 おれには計画なんて立てる必要ないの。どうせ立てたって3日も続かないんだ。計画立てるだけ時間がもったいない。計画立てる暇があるんなら、その間に英単語を覚えたほうがずっといいよ。それに、計画を立てて、そのとおりに行かないと失望する。だから計画なんて立てないほうがいいんだ。どうせ優子も三日坊主だろ。

優子 ひどいわね。やってみなくちゃ分かんないでしょ、三日坊主かどうかなんて。とにかく、計画

を立てないでダラダラと過ごすより、計画を立てたほうがずっと有意義に過ごせるし、勉強だって能率よく進むと思うわ。

裕二 そう言いながら、いつも優子は、3日か、せいぜい続いても1週間だったじゃないか。どうせ今度も3日と続くかどうか…。

優子 うるさいわね。今までのことなんて言わなくてもいいでしょ。今度は実行できる計画を立てたんだから。

裕二 とにかくおれは計画に縛られたくないんだ。勉強すべき時には一生懸命勉強する。遊びたいときには思い切り遊ぶ。これがおれの主義さ。ま、せいぜい頑張ってくれよ。3日後が楽しみだな。いや、1週間後かな。それじゃな、パーイ！

優子(モノローグ) ひどい言い方。いつも裕二君はああなんだから。あたしが何か言うといつも反対のこと言うんだから。ま、見てなさいよ。今度こそは実行してみせるから。

ナレーション そして3日後——。

効果音 (テレビの音)

優子(モノローグ) あれ、もう8時。早いなあ。面白いテレビ見てると、すぐ時間がたっちゃうんだから。でも面白いなあ。これ、何時までやってるのかしら。えーと(新聞の番組表を見て)9時までか。これから勉強する時間だったわ。でも今日ぐらいいいわよね。見たいテレビを我慢して勉強したって、能率悪いしね。ま、いいや、1時間くらい。

父 優子、もう8時過ぎてるぞ。優子の計画によれば、8時から勉強する時間だったじゃないか。

優子 そうよ。でも今日は特別な。見たいものを我慢していると、精神衛生上よくないでしょ。

父 また三日坊主か。

優子 今日だけよ。ちょっと黙ってて。

ナレーション “今日だけ”という言葉が、それから何日か続きました。

優子(モノローグ) 今日も計画どおり行かなかったわ。どうしてかしら？

ナレーション こう言っている時に——。

効果音 (電話のベル)

優子 うるさいなあ。いったい誰かしら？ はい、河野ですが。

裕二 (フィルター音)おれだよ。なんだかあまり元気のない声じゃないか。どうしたんだよ？

優子 別にどうもしないわよ。

裕二 (フィルター音)ところで、計画どおり行ってる？

優子 そんなこと、あなたに関係ないでしょ。用事もないのに電話なんか書けないでよ。

裕二 (フィルター音)何をそんなに怒ってるんだよ。ははーん、さては…？

優子 うるさいわね。あたしが計画どおりに行っていないのが、そんなに面白いの？

裕二 (フィルター音)やっぱり。そうだと思ったよ。だからおれの言ったとおりだろ？

優子 おかしければ笑えばいいじゃない。

効果音 (ガチャリと電話を切る)

ナレーション そして次の日——。

優子(モノローグ) あ～あ、どうしてこう計画どおりに行かないのかしら。まったくやんなっちゃう。今度こそ実行できる計画立てたのに、どうしてかしら。裕二君のあのバカにしたような言葉、本当に頭に來るわ。でも裕二君の言うとおりでわ。計画立てても3日と続かない。そして失望する。やっぱり計画なんて立てないほうがいいのかしら？

ナレーション そんなことを考えながら歩いていると――。

吉岡圭一 河野さん、河野さん！

優子 (驚いて)あ、吉岡先輩…。

圭一 どうしたの、河野さん？ 何か考え事してたみたいだけど。

優子 別に、なんでもないんです。

圭一 だって何回呼んでも気づいてくれなかったじゃないか。

優子 すみません。でも、なんでもありません。

圭一 もしよかったら話してくれないか。

ナレーション 吉岡圭一は優子と同じ高校の出身で、学校時代は、優子が所属しているクラブの部長でした。そして大学2年の今も、時々顔を見せるのでした。そんな彼をみんなは尊敬していました。優子もそのうちの一人だったので、思い切って事の一部始終を彼に語りました。

圭一 そう。僕も河野さんと同じようなことで悩んだことがあるよ。

優子 え、先輩が？ 先輩はクリスチャンだから悩んだことがないと思った。

圭一 クリスチャンだって悩むことはあるよ。僕も計画を立ててはそのとおりに行かなくて、イヤになった時があった。それはクリスチャンになって間もなくだったと思うよ。ある時にね、聖書を読んでいて、こういうことが書いてあったんだ。それはね、箴言というところなんだ。えーと、「あなたのしようとすることを主にゆだねよ。そうすれば、あなたの計画はゆるがない。」(箴言 16:3)それから、もう一つこういうのがあるんだ。「人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、その人の歩みを確かなものにするのは主である。」(箴言 16:9)ここを読んだ時にね、今まで、自分の力でなんとかしよう、自分の力でなんでもできると、自分の力に頼っていたことに気づいたんだ。

優子 でも先輩、人間、頼れるのは自分でしょ。自分で計画だけしておいて、ほかの人にやらしてもらうわけにいかないもん。そりゃ先輩はクリスチャンだから、その神様、イエス様って言うんですか、その人に頼めばいいんだろうけど、あたしなんか、結局自分しか頼るものがないから、だから「よし、やるぞ。優子頑張れ！」って自分に言い聞かせてやるんだけど、その自分にいつも裏切られて、もういい加減落ち込んじゃうんです。

圭一 うん、そうだろうな。昔の僕のこと聞いてるみたいだよ。その期待と現実の落差があんまり大きくなると、もうがっかりもしなくなって、「もうどうにでもなれ。どうせわたしなんか」って、無気力、やけっぱち…。

優子 そう… そうなんです。いっそのこと、裕二君のようになんにも計画なんか立てないで、行き当たりばったり、出たとこ勝負でやっていけたら、どんなに楽かなあなんて思うんです。

圭一 うん、それも一つの生き方だな。だけどね、河野さん。現実がうまくいかないからと言って、計画を立てることが間違っているってことにはならないだろ？ やっぱ、計画って必要だと思うんだよな。特に、一年の始まりの時って、いいチャンスだと思うよ。

優子 でも、やっぱりダメでした…。

圭一 うん。そこでね、それじゃ一足飛びに神様じゃなくて、…こう言おうか、さっき河野さん、「頼れるのは自分だけ」って言っただろ。自分のことは自分が一番よく知ってるんだけど、その自分に正直に言えば、「本当は自分って意外と頼りにならないな」ってことじゃない？ 僕たちの失敗は、計画そのものが原因じゃなくて、それを頼りにならない自分の力でやろうとすることなんだよね。そんな自分に一度とことん絶望する。そこからね、もう一つ、まったく次元

の違う“信仰の世界”、本当に頼れるお方に頼る世界が開けてくると思うんだ。

優子(モノローグ) 本当に頼れるお方に…？

ナレーション 優子は、生ききとした先輩の顔を見ながら、「あなたのしようとすることを主にゆだねよ」と言うさっきの聖書の言葉に、初めて心引かれる自分を感じていました――。

<完>